

# 研究授業を行いました～1年生～

2月14日(月)、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で延期していた校内研究授業を実施しました。今回は、1年生の国語「たぬきの糸車」を題材にして、渡部大先生が授業を公開しました。

子どもたちは、学習のまとめとして行う音読発表会に向けて、読み方を工夫するために、叙述に即してたぬきの感情や思いを理解しようと学習をしていました。

楽しそうに糸を紡いでいるたぬきが、のぞき見しているおかみさんに気づき、「うれしくてたまらない」気持ちで逃げていったとの叙述から、「なぜ、たぬきはうれしかったのだろうか？」という課題についてみんなで考えました。子どもたちは、各々でこれまでの学習を振り返って考えたり、文章の中に手掛かりがないか探したりした後、近くの友だちと意見交換しながら課題解決に向かうことができました。話し合う中で、「うれしくてたまらない」だから、「うれしいは一つでない、たくさんあるんだ」と考えを深めることができました。

また、今回の研究授業では、ICT機器を活用した活動にもチャレンジしました。タブレットに入っているデジタル教科書に、子どもたちは自分の考えのキーポイントとなる叙述に線を引いたり、コメントを書いたりすることができていました。

今後も、主体的に学習に取り組む児童の育成を目指して、職員も研修を積み重ねていきたいと思えます。



タブレットを活用してキーポイントとなる文について意見交換しています。

## 学校運営協議会委員による学校評価まとめ

先日、まん延防止重点措置の期間に実施を予定していた学校運営協議会を、紙面協議という形でを行いました。これまで実施した児童アンケートや保護者アンケート、学校が取り組んだ活動などの資料から今年度の学校運営について評価していただきました。どの項目も肯定的な評価の割合が高くなっていますが、いただいたご意見をもとに来年度の教育活動を考えていきます。

評価、ご意見については次の通りです。

### 1 知育、徳育、体育について(そう思う4点、大体そう思う3点、あまりそう思わない2点、そう思わない1点)

	質問項目	平均
知育	学校は、児童の基礎的な学力を、家庭学習の充実やがんばり週間の設定により、身に付けさせている。	3.75
	学校は、授業などにICT機器を活用することで、これからの時代に対応した技能を児童に身に付けさせている。	3.5
徳育	学校・家庭・地域が連携した取組によって児童にあいさつをする意識の向上が見られる。	3.5
	学校が目指す子ども像に向け、子ども同士の関わり合いを大切に活動を実施し、児童の自己有用感や他者理解を深めている。	3.75
体育	学校は、体育的行事の充実や運動する機会を与えながら、児童の体力向上を図っている。	3.63
	学校は、家庭と連携して、メディアへの対応や規則正しい生活習慣の定着を図ろうとしている。	3.63



あいさつ運動

#### 委員からのご意見・ご感想

- ・家庭学習の習慣化の向上など子どもたちが見通しを持って取り組めるようになったことで、子どもたちが積極的に学ぶようになったのではないかと。
- ・学習生活ががんばり週間で学習習慣・生活(メディア)について見直し、計画することで意識されるので、とてもよい。
- ・ICTについては、絶えず技術が進み、活用し尽くすことの難しさを感じる。アナログにはアナログのよさがあるというスタンスで授業されているように感じた。
- ・あいさつをする意識の向上が見られる。
- ・あいさつもよいのですが、身だしなみなどにも少し気を付けていければよい。例えば、「靴をそろえる」「頭の寝ぐせを直す」など。学校でもそれをやるということができれば、学校⇄家庭での向上につながると思う。
- ・子ども同士のかわりからよいところをお互いに見つける「ハートカード」の実施が自己有用感に十分につながっている。
- ・メディアへの対応や規則正しい生活習慣の定着についての取組はされていると思うが、家庭ごとの取組に差が大きいのではないかと。

### 2 目指す子ども像「自分もみんな(地域)も大切にする児童の育成」について

	質問項目	平均
1	学校と地域で目指す子ども像に向けた目標や課題が共有されている。	3.38
2	熟議で話された地域素材(ヒト、モノ、コト)を生かし、学校活動の充実が図られ、地域とのかわりが広がっている。	3.38
3	2学期以降の取組により、「目指す子ども像」の具現化が図られていると考える割合を%でお答えください。	85.70%



松葉かき

#### 委員からのご意見・ご感想

- ・「コミュニケーションをいっばいとること」「その機会を設けること」が大切と思う。
- ・外部の方との接し方を知らない児童も一部見られることから、児童に外部の大人が「社会性」や「礼儀」について教えてあげられたらと感じた。
- ・学校の課題より、家庭における課題が多いように感じる。アンケートにある言葉使いやメディアコントロール、規則正しい生活習慣は、学校が様々な指導を行っても、最終的には、保護者の考え方で変わってしまう難しい部分ではないかと。
- ・児童アンケートにある「困ったときや失敗したときに先生や家の人、友達に話すことができますか?」の設問で、C・Dと答える児童が31人もいる。”SOSをだせる”ことは生きていく上で大切であり、ありのままの自分を表現できない、受け入れられないことにつながると思う。
- ・地域での(への)あいさつが課題ということがいつも挙げられている。それぞれの地域に行くことも子どもたちだけでは難しく、車を使っての移動であり、また、下校中のあいさつなどの機会も他校より少なく、圧倒的に経験値が少ないのではないかと。住んでいる地域で保護者と地域が連携して何かできることを考えていく必要があるのではないだろうか?
- ・アンケートでもご意見があったように、「家庭・地域との連携」で改善や伝え方に工夫がまだできるように感じます。
- ・以前より、地域と一緒に取り組むことが増えている。
- ・地域の課題・高齢化、人口減なども考えては。例えば、地域のお祭りなどを通して、地域を知り、愛着をもつ、地域で活躍している若い方の活動(仕事)を知るなど